

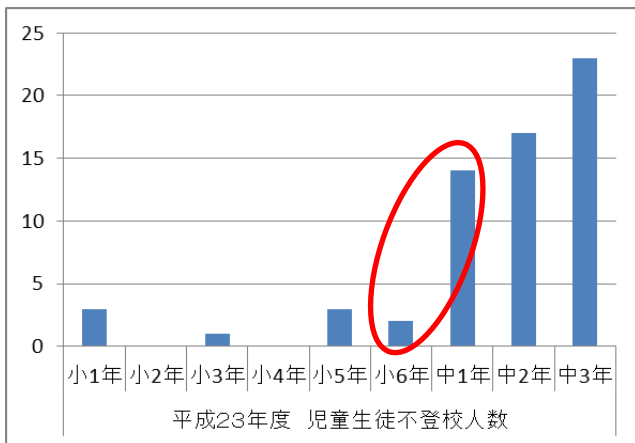
四條畷市教育委員会ニュース

小中一貫教育を目指して！

～市内 4 中学校区ごとに、つながりを求めて～



- 内容：小中一貫教育を目指して
- ・中学校区ごとに 9 年間を見通した小中一貫教育を推進
 - ・今後 3 年間の具体的目標
 - ・小中一貫教育で期待される成果



小学校と中学校では、ともすれば学校間の接続が必ずしも円滑とは言えない状況があり、学習内容や指導方法などに不安を抱えて中学校に進学する子どもが見られます。各中学校ではさまざまな努力をしてきましたが、学習意欲の低下などの課題が見られます。

例えば、左の棒グラフは平成 23 年度市内小中学校学年ごとの不登校人数を示したのですが、中学 1 年になると急に増加しています。

これは、新しく学ぶ教科や教科担任制による指導体制など、小学校とは違う新たな中学校生活において生ずる心理

的な不安、いわゆる「^{ちゅういち}中一ギャップ」といわれる傾向が要因と考えられます。

このような問題を克服するため、今年度からすべての中学校区において「小中一貫教育」を目指した取組みを進めています。

○中学校区ごとに 9 年間を見通した小中一貫教育を推進！

具体的には、現在の義務教育の 6・3 制を維持しながら、子どもの実態に即した指導を行います。

小学校と中学校の段差をうめて、子どもの育ちや学びの連続性を重視した教育活動について、教職員が中学校区ごとで合同の授業や生活指導などの研究を行うことで、教師力・授業力の向上に取組んでいきます。

また、子どもたちが双方の学校行事交流や授業を体験したり、小学校教員と中学校教員が相互に乗り入れ授業を実施し、指導方法の工夫改善に努めていきます。

○今後 3 年間の具体的目標

ステップ 1 (平成 24 年度)「小中一貫教育推進の基盤づくり」

○重点課題の設定

中学校区の特色や児童生徒の実態などをもとに、共に取り組むべき課題や、めざす姿を共有します。

- ・学力調査の分析と方策
- ・一貫性のある授業規律の確立
- ・合同授業公開・研究会



○推進体制の整備

既存の組織を効果的に活用し、重点課題に対応した継続的な取組みが行えるような体制をつくります。

- ・小中連絡会の定例化
- ・合同研修会の開催

ステップ2 (平成25年度)「具体的な実践による交流づくり」

○教職員・児童生徒交流

授業公開・相互指導により学習状況や指導方法を知り、9年間を見通した指導体制や学校行事の交流を深めます。

- ・校内授業研究会への参加
- ・学校の特色を生かしたカリキュラム作成
- ・学校行事への参加

○地域との交流

総合的な学習の時間や道徳の学習に地域人材の積極的な支援により、地域学習・〇〇教育を充実させます。

- ・環境教育、キャリア教育等地域の特色を生かした学習の展開



ステップ3 (平成26年度)「中学校区での特色づくり」

○連携の拡大

幼稚園・保育所との円滑な接続を図り、小中一貫教育を支える地域の協力体制を深めます。

- ・就学時の連絡会
- ・行事の参加
- ・すこやかネットとの連携

○情報の発信

小中一貫教育の取り組みを家庭や地域に発信し、中学校区全体で子どもを育てる機運と参画の意識をさらに高めます。

- ・ホームページの活用
- ・学校だよりなど広報紙の活用

各中学校区ごとの取組み実態により、先進的に次のステップに進めていきます。なお、田原中学校・田原小学校においては、市内のパイロット校として先行的に研究を進めております。

それぞれの中学校ごとの取組みにつきましては、今まで以上に保護者や地域の皆様のご理解とご協力が必要になってまいります。一層のご支援のほどよろしくお願いいたします。

○小中一貫教育で期待される成果

学力向上	9年間を見通して小中学校で年間指導計画を作成し、系統的に指導することで、専門的な知識や技能の習得につなげ、学力の向上を図る
中学1年生の不安解消	小中学校の教員が相互に乗り入れ授業を行ったり、行事やクラブ活動を体験することにより接続を円滑にし、中学1年生の不安の解消を図る
いじめ不登校の減少	小中学校の教員が一体となった指導で、生活指導の課題に対し迅速かつ的確に対応することにより、いじめや不登校の減少を図る
個性・能力の伸長	9年間の長いスパンでの継続的な教育活動により、子どもたち一人ひとりの興味・関心や学習意欲を育てるきめ細かな指導を図る
豊かな人間性・社会性の育成	学校の創意工夫を生かした教育活動により、子ども同士が相互に交流を大切にした学習や生活をするに、豊かな人間性・社会性の育成を図る